

1. 第3次総合計画における施策の体系									
目指す都市像(政策)	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち					
施策	番号	2	名称	文化芸術活動の振興					
主担当部	市民文化部		主担当課	文化・スポーツ課		部長名	岩田 弘子		
関係部			関係課						
2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)									
この施策の目的	文化の主役は市民であり、市民の自主的な活動が文化芸術の創造・発展の源と言える。こうしたことから行政は、市民が積極的に文化活動に参加できるようにし、文化芸術に対する関心を高めることを目的とする。								
3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)									
この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について			社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について					
	芸術鑑賞の場として、幅広いジャンルの自主公演を行っている。また、市民が自分の活動を発表できる場として多目的ロビーの活用を継続して行う。			近年、地域社会における文化政策は、文化芸術の持つ想像力、集客力、発信力等が経済や社会に多様な影響を与えることから町づくりの一環として取り組まれている。「文化芸術振興基本法」が施行され国、地方の責務が示され地域の特性に応じた自主的かつ主体的な文化芸術施策が求められている。しかし一方では、多くの公立文化施設の共通課題ともいえる予算面で多くの制約を受けざるを得ない現状に直面している。					
これまでの成果	伝統型、芸能型、芸術型の幅広い自主事業を行い、また、市民の活動を発表できる場としてロビーコンサートをも1回行った。								
4. 指標及びコストの推移									
指標の推移	名称及び単位等	23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
	施策指標①(成果指標)	自主事業公演事業開催数	10	10	10	—	—	—	伝統1、芸能4、芸術4、科学1
	施策指標②(成果指標)	市民参加型公演開催数	10	10	10	—	—	—	シルク、文楽、長靴、加藤、NATOTO、うたって、やなせ、錦織、小椋、サイセンス
	施策指標③(成果指標)	ロビーコンサートの発表件数	12	12	12	—	—	—	
	施策指標④(成果指標)	貸館部分の利用率	42.9%	45.0%	41.7%	50%	50%	50%	
施策指標⑤(成果指標)									
コストの推移(単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)		241,045	239,730	229,716	249,296	827,358		
	歳入(b)	受益者負担額	48,980	46,872	53,204	50,969	55,291		
		国や県からの補助金その他							
	(a) - (b) = 一般財源		192,065	192,858	176,512	198,327	772,067		
	正職員	従事者数(単位:人)	5.30	4.55	5.05	4.60	4.60		
		人件費(c)	33,199	28,224	31,325	28,534	28,534		
	トータルコスト(a) + (c)		274,244	267,954	261,041	277,830	855,892		

5. 施策の評価						
有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	市民参加型を含め自主事業を積極的に行なっているが、ジャンルによっては集客率が低迷するものがある。ロビーコンサートは、創作、発表等の場として広く各種団体、グループに利用され、好評を博している。貸館事業については、会議室、研修室の利用率は高い。施設面では、来館者の安全と快適性を優先し維持管理を行なっている。				
		1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	年齢を問わず、特に青少年には優れた文化芸術に触れることで、自らも参加したい、演じたいと思える心の芽生えが、将来の文化芸術による地域の活性化や担い手として地域文化の振興に繋がることから、質の高い芸術鑑賞の場を提供している。				
6. 施策の課題						
この施策の課題	施設の経年劣化が端緒に現れており年次計画による改修が必要となっている。自主事業については、限られた予算内で広く市民のニーズに応じられるよう、ジャンル毎に厳選しているが集客率を考えれば知名度、人気度共に高い芸能人に限られ、費用が高くなる。					
7. 次年度以降の施策の方向性						
総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明	市民の身近な文化の体験・創造の場や文化を基盤とした個性と魅力ある地域づくりの拠点として、市民の文化芸術活動や交流を促進することにより、市民文化や地域文化の創造を図る。				
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明					
8. 構成事業の方向性 (それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する)						
1次評価	説明	地域に根付いた文化芸術を継承し、より豊かなものへと発展させるためには、新たな文化の担い手を育成していくことが重要です。未来の担い手の育成や、市民が行なう創作活動に対する支援の充実や、子ども達が文化芸術に親しむ機会の拡充を図るなど、その能力を引き出し、発揮できる環境づくりを推進していかなければならない。				
2次評価	説明					

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。  
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。  
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。  
(優先度が高い順に A、B、C、D)

(ソフト事業、内部管理・維持管理事業)

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)		事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
						貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
文化・スポーツ課	○	ソフト 義務	かしはら万葉ホールの運営・維持管理 1. 貸館業務 2. 運営管理業務 3. 施設管理業務 4. 施設維持業務	212,477	2	b	見直しながらかつ続ける	A
かしはら万葉ホール貸館事業		内部管理・維持管理						
文化・スポーツ課	○	ソフト 義務	芸術的価値の高い、芸能鑑賞の場を市民に提供していくため 市民のニーズにあった幅広い年齢層を対象とした公演を行う。安価で良質な芸能鑑賞の場を市民に提供していくため、情報収集を行い、HPや公共的広報誌など費用対効果の高い方法で宣伝するなど事業費を抑える工夫し、公演を行なう。 ①シルクのべっぴんレッスン(6月) 75.9% ②影絵劇 長靴をはいた猫(7月) 44.2% ③やなせなな(1月) 73.3% ④小椋佳 歌紡ぎの会(3月) 73.3%	7,621	2	a	見直しながらかつ続ける	C
大衆型自主事業		内部管理・維持管理						
文化・スポーツ課	○	ソフト 義務	芸術的価値の高い、芸能鑑賞の場を市民に提供していくため、情報収集を行い、ホームページや公共的広報誌等、費用対効果の高い方法で宣伝するなど事業費を抑え、公演を行なった。 ①「音楽のソムリエ」加藤ヒロユキと旅する「世界のドラマティック音楽」(8月)25.9% ②「NAOTO&清塚信也アコースティック・コンサート」(9月)53.0% ③京フィル歌って踊って楽しいね(12月)49.2% ④「錦織健 テノールコンサート」(2月)54.7%	8,079	2	a	見直しながらかつ続ける	B
芸術型自主事業		内部管理・維持管理						
文化・スポーツ課	○	ソフト 義務	多くの方に鑑賞の機会を持っていただくために、できる限り安価な価格で提供する。 ・人形浄瑠璃 「文楽ノススメ」(7月)	1,539	2	a	見直しながらかつ続ける	D
伝統型自主事業		内部管理・維持管理						

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月12日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業			
事務事業名	かしはら万葉ホール貸館事業								
担当課名	文化・スポーツ課				課長名	藤井 寛			
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち						
	施策	2	文化芸術活動の振興						
予算事業名	文化ホール管理運営費								
事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度		
対象	かしはら万葉ホール館利用者			事業の内容説明	かしはら万葉ホールの運営・維持管理 1. 貸館業務 2. 運営管理業務 3. 施設管理業務 4. 施設維持業務				
事業の目的	文化芸術活動を実践しようとする市民や団体等に活動機会を提供できるよう、文化芸術事業継承のための拠点として整備し、市民の文化力の向上を支援することを目的とする。								
<b>妥当性評価</b> この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業					
	説明	公立文化施設は地域の文化及びまちづくりの核となる施設であり公共性が高く、また収益性の面からも市が関与すべき事業である。							
やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない				
		説明	文化芸術活動の振興が実現できない。						
<b>DO実施</b>	指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
	成果指標	会議室等の利用率(利用日数/利用可能日数)		74.5	75.0	72.6	75.0	75.0	75.0
	活動指標①	レセプションホールの利用率		65.5	65.0	60.8	65.0	65.0	65.0
	活動指標②	ロマンピアホール利用率		36.2	35.0	40.2	40.0	40.0	40.0
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
		歳出(直接事業費)(a)		218,855	220,274	212,477	227,122	805,184	
		歳入(b)	受益者負担額	39,077	38,994	43,856	39,534	43,856	
			国県補助金等その他						
		(a) - (b) = 一般財源		179,778	181,280	168,621	187,588	761,328	
正職員		従事者数(単位:人)	2.95	2.30	2.80	2.30	2.30		
		人件費(c)	18,479	14,267	17,368	14,267	14,267		
トータルコスト(a)+(c)		237,334	234,541	229,845	241,389	819,451			
単位当たりコスト	計算式等								
備考(これまでの実績等)	耐用年数を越えた機器の更新を計画するため、平成26年度予算が増加している。								

CHECK	有効性評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	会議等の利用率は高く、成果は出ている。利用率はほぼ同水準で推移しているが、より高い目標の達成を図る必要がある。						
		上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
評価	効率性評価 経費削減は可能か	説明	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる		
		維持管理に要する費用は年々増加する傾向にあるが、可能な限り節減を行っており、これ以上のコスト削減を行えば品質及び安全が低下するため、コスト低減はあまり期待できない。							
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	施設の竣工以来、17年が経過しているため、経年劣化や耐用年数により建物の損傷、設備機器の不具合が多数発生する時期に到達している。今後保守点検結果に基づき早期に予防保全を実施することで、従来どおり利用者が施設を安全に利用できる状態を維持する。平成23年度から5カ年で建物及び設備等の中規模改修を計画的に行なっている。また、耐用年数を越えた機器の更新を計画する。							
	どんなことが期待できるか(効果)								
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内優先度	A		
		4 廃止又は休止する	5 完了する						
		説明	文化芸術事業継承のための拠点として運営・維持管理を適切に進める。						

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月12日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業			
事務事業名	大衆型自主事業								
担当課名	文化・スポーツ課				課長名	藤井 寛			
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち						
	施策	2	文化芸術活動の振興						
予算事業名	文化ホール管理運営費								
事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度		
対象	市民			事業の内容説明	芸術的価値の高い、芸能鑑賞の場を市民に提供していくため 市民のニーズにあった幅広い年齢層を対象とした公演を行う。安価で良質な芸能観賞の場を市民に提供していくため、情報収集を行い、HPや公共的広報誌など費用対効果の高い方法で宣伝するなど事業費を抑える工夫し、公演を行なう。 ①シルクのべっぴんレッスン(6月) 75.9% ②影絵劇 長靴をはいた猫(7月) 44.2% ③やなせなな(1月) 73.3% ④小椋佳 歌紡ぎの会(3月) 73.3%				
事業の目的	市民ニーズにあった大衆芸能分野の公演を安価に提供する為、市民に喜んでいただける事業を厳選して実施することを目的とする。								
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
	3 任意		市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業						
	説明	このジャンルの公演については全国的に行なわれているが、地元において手軽に参加できるとい う、市民の利便性を考え、市内で行なっている。							
	やめた場合の影響は	3	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない			
	説明		遠方に出向くことが困難な子育て世代や高齢者等にとって身近な娯楽としての芸能観賞の機会が低下する。						
指標の推移	名称及び単位等			23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	公演入場者数			3,094	1,075	1,853	1,800	1,800	1,800
活動指標①	通年公演販売率			71	85	70	75	75	75
活動指標②									
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)			13,796	11,549	7,621	10,847	10,847	
	歳入(b)	受益者負担額			6,842	5,949	5,094	5,169	
		国県補助金等その他							
	(a) - (b) = 一般財源			6,954	5,600	2,527	5,678		
	正職員	従事者数(単位:人)			0.85	0.80	0.80	0.80	
		人件費(c)			5,324	4,962	4,962	4,962	
	トータルコスト(a)+(c)			19,120	16,511	12,583	15,809		
単位当たりコスト	計算式等								
備考(これまでの実績等)									

PLAN 計画

DO 実施



CHECK 評価	有効性 評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	知名度の高いメジャーな出演者には発売数が伸びるが、そうでない場合は発売数が低調である。						
	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	多数の市民が求めるジャンルでもあり注目度は高い。						
評価	効率性評価	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	知名度の高い芸能人を呼ぶため、出演料を安価に抑える予知はあまりない。宣伝費部分で多少の余地が考えられる。						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	演目や出演者の選定に当たっては幅広い年齢層の人たちの趣味、趣向に沿った公演内容とし、また、収益性の低い公演は、明確な理由があるものを除き、優先順位を下げる。平成20年度から宣伝費を抑制するため費用対効果の高い手法(県民だより、HP、掲載料無料の情報誌等)を活用し、実施している。また、ポスターやチラシのデザインを公演委託先や職員自らが行なうことで印刷費用等のコスト削減に努めている。							
	どんなことが期待できるか(効果)								
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内優先度	B		
		4 廃止又は休止する	5 完了する						
	説明	収益性があり発売数の増加につながる演目等を厳選することで幅広い年齢層の支持を得る。							

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月10日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業			
事務事業名	芸術型自主事業								
担当課名	文化・スポーツ課				課長名	藤井 寛			
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち						
	施策	2	文化芸術活動の振興						
予算事業名	文化ホール管理運営費								
事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度		
対象	市民			事業の内容説明	芸術的価値の高い、芸能鑑賞の場を市民に提供していくため、情報収集を行い、ホームページや公共的広報誌等、費用対効果の高い方法で宣伝するなど事業費を抑え、公演を行なった。				
事業の目的	芸術価値の高いクラシックやJAZZ、芸術家の公演等を提供する為、市民に喜んでいただける事業を厳選して実施することを目的とする。				①「音楽のソムリエ」加藤ヒロユキと旅する世界のドラマティック音楽」(8月)25.9% ②「NAOTO&清塚信也アコースティック・コンサート」(9月)53.0% ③京フィル歌って踊って楽しいね(12月)49.2% ④「錦織健 テノールコンサート」(2月)54.7%				
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業								
	説明	芸術性は高いものの収益性が低い為、市が関与することで、このジャンルを広めていく。							
やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない				
		説明	芸術性の高い公演に触れる機会が減少する。						
指標の推移	名称及び単位等			23年度	24(評価)年度	25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
成果指標	公演入場者数			1,849	2,200	1,587	2,200	2,200	
活動指標①	通年公演販売率			56	70	46	70	70	
活動指標②									
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)			5,684	5,637	8,079	7,821	7,821	
	歳入(b)	受益者負担額			2,769	1,637	3,730	5,366	5,366
		国県補助金等その他							
	(a) - (b) = 一般財源			2,915	4,000	4,349	2,455	2,455	
	正職員	従事者数(単位:人)			0.75	0.70	0.70	0.75	0.75
		人件費(c)			4,698	4,342	4,342	4,652	4,652
	トータルコスト(a)+(c)			10,382	9,979	12,421	12,473	12,473	
単位当たりコスト	計算式等								
備考(これまでの実績等)									



CHECK 評価	有効性 評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	予定どおり公演を実施した結果、評判は上々であった。							
	効率性評価 経費削減は可能か	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	芸術性の高いジャンルの公演と言える。							
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	宣伝費を抑制するため、費用対効果の高い手法(県民だより・HP・掲載無料の情報誌等)を選択し、実施することで、公演にかかる経費を安くあげる。クラシック公演では、住民参加型とすることにより、クラシックへの関心を高め、入場者数を多くします。大人から子どもまで幅広い年代層を対象とした公演を実施します。								
	どんなことが期待できるか(効果)									
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内優先度	A			
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する						
		説明	芸術性の高いものや住民参加型の公演を優先して実施。							

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月12日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業			
事務事業名	伝統型自主事業								
担当課名	文化・スポーツ課				課長名	藤井 寛			
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち						
	施策	2	文化芸術活動の振興						
予算事業名	文化ホール管理運営費								
事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成		年度		
対象	市民			事業の内容説明	多くの方に鑑賞の機会を持っていただくために、できる限り安価な価格で提供する。 ・人形浄瑠璃「文楽ノススメ」(7月)				
事業の目的	古くからの伝統文化には、本市を含む周辺地域で発祥したものや、演目の中で本市が出てくるものがあるなど、質の高い伝統芸能を育成し、次世代に継承しながら市民に鑑賞の機会を設けることを目的とする。								
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業								
	説明	収益性が非常に低いことから、市が関与しなければ榎原市で公演を鑑賞できる機会がなくなる。							
やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない				
		説明	文化的価値の高い公演を鑑賞できなくなり、文化活動の振興ができなくなる。						
指標の推移	名称及び単位等			23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	公演入場者数			119	523	255	500	500	500
活動指標①	通年公演販売率			28	50	65	50	50	50
活動指標②									
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)			2,710	2,270	1,539	3,506	3,506	
	歳入(b)	受益者負担額			292	292	524	900	900
		国県補助金等その他							
	(a) - (b) = 一般財源			2,418	1,978	1,015	2,606	2,606	
	正職員	従事者数(単位:人)			0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
		人件費(c)			4,698	4,652	4,652	4,652	4,652
	トータルコスト(a)+(c)			7,408	6,922	6,191	8,158	8,158	
単位当たりコスト	計算式等								
備考(これまでの実績等)									

CHECK 評価	有効性 評価 事業は 有効か (指標に 出ない 効果)	成果は 向上して いるか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い	説明 古典愛好者には好評であり今後の取組みも期待されている。また、落語についても実施済みである。
		上位施策 への貢献 度はどう か	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い	
	効率性評価 経費削減は可能か		2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる	説明 宣伝費用を工夫しているものの、知名度のある人を呼ぶため出演料については安くあげる要素はあまりない。
ACTION	具体的にどうする ことにより(手段)	古典芸能である人形浄瑠璃文楽を長年行ってきたが、今後は若い世代、子どもなども鑑賞できるような伝統芸能を取り入れて、手軽に楽しめる機会を多く取り入れることで愛好者の裾野を広げる。						
	どんなことが期待 できるか(効果)							
修正 行動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内 優先 度	B	説明 伝統芸能を次世代に継承していくため、伝統芸能に身近に接することのできる環境づくりに努める。
			4 廃止又は休止する	5 完了する				